

行政と社協が協働した 鴨川市社協の取り組み

先に実施した千葉県鴨川市社協の先進地視察研修(8月20日～22日)の報告会は、平成25年度市町村社協会長懇談会(9月27日、ホテルルイズ)の終了後に行われました。参加者の声をお伝えします。



先進地視察に参加した方々



市町村社協会長懇談会

「社協は「しあわせ協議会」

久慈市社協 坂本 治雄 会長

行政は社協を「地域福祉を推進する最も重要なパートナー」と地域福祉計画にその役割を明確化し、協働で取り組みを展開されていました。

主な取り組みには、ワンストップ相談機能を持つ福祉総合相談センターの設置があり、そこでの課題に対して、行政と社協が協働で個別支援、地域支援を進め、更には政策形成の取り組みまで行われていました。住民主体の地域福祉の推進は、行政と社協が一体感を持ち、協働することが必要だということを再認識いたしました。

「岩手を誇れる地域福祉県に

金ヶ崎町社協 桑島 正安 会長

社協と行政は緊密な関係にあり、支援を要する人も少なくカバーする一体的な取り組み



久慈市社会福祉協議会 坂本 治雄 会長



金ヶ崎町社会福祉協議会 桑島 正安 会長



大槌町社会福祉協議会 徳田 信也 会長



二戸市社会福祉協議会 山口 金男 会長



北上市社会福祉協議会 菊池 憲一 会長



住田町社会福祉協議会 吉田 浩 事務局長

組みが素晴らしく、その強いおもいが伝わる研修内容でした。行政は新たな支え合いづくりに向けて横断的な連携体制を構築し、また社協はコミュニティソーシャルワークを実践して、住民の意見や要望をくみ取る努力を続けておりました。

現在、当社協は行政と協働で地域福祉活動計画を策定中なので、事務局も一緒に参加しました。視察成果をそれぞれの社協運営にいかすことで、岩手の地域福祉力は高まるものと考えています。

「対等な関係づくり」

大槌町社協 徳田 信也 会長

行政は社協に一体的に地域福祉活動計画を策定すること呼びかけ、行政の地域福祉計画に社協の役割を明確化していました。地域福祉に対する考えと目標が一体的であり、対等な関係づくりの重要性を再認識いたしました。

当町の被災地支援に植栽ボランティアで訪れた方々にもお会いでき、嬉しく思っています。

ます。

「行政との「一体化」と「人づくり」

二戸市社協 山口 金男 会長

4年連続で先進地視察研修に参加していますが、地域福祉推進力のかなめは「行政との一体化」と「人づくり」と考えています。

鴨川市社協は行政と協働し、新たな支え合いづくりに「何が必要か・何に取り組みか・どんな地域にしたいか」を考え、「つなぐ・つなげる・つながる」実践を重ねながら、解決への仕組みづくりを進めておりました。

視察に同行した女性職員(主任保健師と社会福祉士)の志の高さに驚きました。様々な仕組みをつくり実践することが社協人の仕事ですが、行政や関係者と対等に向き合う力量も大切と考えています。

「顔の見える福祉のまちづくり」

北上市社協 菊池 憲一 会長

本年度は、次期「地域福祉活動計画」策定の年であり、市の

計画と協働歩調を取りながら、策定段階にあります。

現在、合同の策定委員会が地域福祉の理念・使命・役割を確認し、共有しながら、会合を重ねています。

視察では行政側が社協の存在と役割を大きく評価し、協働で新たな地域づくりを展開されてきました。自主財源の仕組みづくり(開発・確保)もヒントになりました。

「策定プロセスを大切に」

住田町社協 吉田 浩 事務局長

来年度から本格的に地域福祉活動計画策定に取り組みますが、策定プロセスの中で行政を巻き込み、一体的な計画にしたいと考えています。

社協では地域課題の把握と解決のためにCSW(コミュニティソーシャルワーク)手法を取り入れ、成果を上げていました。今年度から当社協に保健師も加わった経緯もあり、CSWの必要性を浸透させ、実践したいと考えています。